



はっけん



九州手話サークル連絡協議会

2022年
8月 発行

URL : <http://www.kyusyuren.org/>

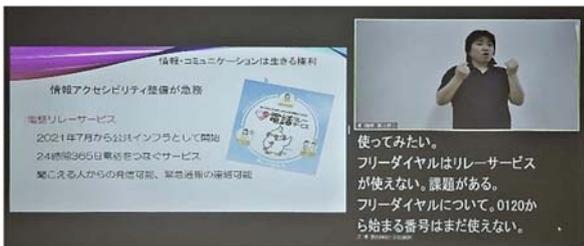
第30回

九州手話サークル研修会

福岡県

令和4年6月26日(日)

クローバープラザサテライト会場 (福岡県)



オンライン形式とサテライト集合形式で、3年ぶりに第30回九手連研修会が開催されました。午前は、「手話言語法制定に向けて これまでとこれから」というテーマでの活動の取り組みの講演があり、午後は手話言語条例された後の各県の取り組みの状況を熊本・長崎・佐賀・福岡・大分・鹿児島の順に報告を受けました。どの県もパンフの作成や手話言語啓発のため学校・行政機関等での手話講座開催を企画。また、大分では手話動画の作成、指差しコミュニケーションボードを作成・配布を行う等色々な取り組みをやっています。ただ、どの県の報告内容に共通することは、条例ができたから終わりではなく、これからだと思ふ気持ちを持ち進んでいかなければならないと感じた研修会でした。

福岡県 飯塚市手話の会 白木 英生

「午前中の「手話言語法の制定を目指して、これまでとこれから」に参加して」

九州聴覚障がい者団体連合会手話対策部長 富永悟子さんの講演をサテライト会場で聞きました。今回、はじめてのオンライン講演会ということで九州各県をつなぎ、手話通訳、要約筆記も画面越しの通訳があり、準備等大変だったと思います。午前中の講演は、富永さんの経験も交えながら就労や色々な生活の場面、病院、災害時などに手話が必要であること、そして、令和4年5月19日に「障害者による情報の取得及び利用並びに意思疎通に係る施策の推進に関する法律案」(通称:障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法)が衆議院にて成立、5月25日に公布・施行されたことにより更に手話言語法に近づく第1歩であることが話されました。



電話リレーが公式インフラとして使われるようになって1年。それでも、まだフリーダイヤルは電話リレーでは使えない不便もあり改善がまだ必要である事、昔に比べて聴覚障がいの社会参加は増えてきたものの、まだまだ理解されない現状があります。今回は、ろう者の生活の中で、どんなことを

不便に感じるか?を詳しく説明があったので、サークルに入って日が浅い方にも聞きやすい内容だったと思います。

手話サークルができること、一緒に考えることがもっと大切なのではないでしょうか?手話サークルに入った初心を思い出し、ろう者とともに歩む必要性を改めて感じました。

コロナ禍で手話通訳が改めて必要であることを痛感されるこの2年間でしたが、今から変わるであろう手話の環境に敏感に反応していきたいです。

福岡県 太宰府手話の会 山本 美代子

県手連 組織部・研修部 担当学習会

令和4年度 福岡県手話の会連合会 サークル学習会

～のぞいてみよう隣の例会～

7月10日(日)9:30～12:30
クローバープラザ 501

PART I 北九州手話の会小倉南支部

～フィジカルディスタンスでもできる

PART II 福岡手話の会 東支部

～オンライン例会のススメ～

「サークル学習会に参加して」

今年のはのぞいてみよう隣の例会で、前半は北九州手話の会新虹の会小倉南支部の担当でした。

前に5人出て、お題を手話、指文字と交互に伝えていくあべこべ伝言ゲームは、特におもしろかったです。“私は加藤です”“私も加藤です”、“行ってはダメ”“行ってもダメ”など、伝え方を工夫しようとしている様子や、思うように伝わらない様子などを見て、助詞の伝え方を考えさせられました。



手話禁止ゲームは、5人が手話を使わずにお題の言葉を伝えていくゲームで、一つの単語に対する



イメージが人それぞれ違うこと、身振りでも通じることと身振りでは伝えにくいことがあると感じました。マスクを着けたままで口型が読みとれないからこそその難しさと気づきがあると思いました。後半は福岡手話の会東支部のオンライン例会のススメで、実際にされている様子を見せていただきました。音声が届かなかった時や映像が止まってしまった時の対応など、かなり入念に準備されていました。数名の方で役割分担をされていたが、進行役だけでなくパソコンの操作技術や手話通訳技術のある人が必要だと感じました。また、チームズという1時間まで使えるアプリがあるのを初めて知りました。

サークル学習会の参加は数年ぶりでした。3時間があっという間で、とても勉強になりました。ありがとうございました。

サークル学習会の参加は数年ぶりでした。3時間があっという間で、とても勉強になりました。ありがとうございました。

福岡県 北九州手話の会 半田 貴子

★サークル学習会隣の地区の手話サークルを覗いてみようということで、小倉南区の手話→指文字→手話…というゲームを実際に体験するなかで、助詞の表現の難しさや伝えたい気持ちの大切さに改めて気づくことができました。普段は会うことができない方と交流することもできたり、どんな活動を行なっているのかを知ることができたりして大変有意義な時間となりました。ありがとうございました。

福岡県 宗像手話の会 平井 智咲

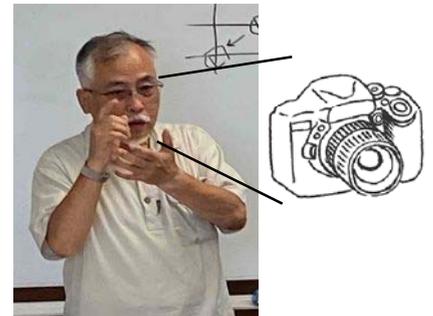
★小倉南区の手話サークルの伝言ゲームで、手話と指文字を交互に伝えることで段々と表現が変わっていくのが興味深いと感じました。また、私はいつも手話の会でゲームの企画をするので、ゲームの参加者数に応じて時間制限や回数制限を設ける工夫があったことを初めて知り、参考にしたいと思いました。以前個人的にオンラインで手話ベリをしたことはあるのですが、手話の会やサークルの場合は時間制限などがあるのでオンラインでの活動の難しさを知りました。他のサークルを見て勉強になりました。ありがとうございました。

福岡県 宗像手話の会 吉岡 明日佳

県手連広報部担当セミナー

第 35 回広報セミナー

～ひとり撮れる写真のあれこれ～
令和 4 年 7 月 24 日(日)



★参加者は四人。色々なテクニックの講義を一時間ほど受けたあと、各自、外へ出て撮影会をしました。

講義の時に教えていただいたように、真ん中にドンと対象物を置くのではなく、空間を上手く使う方法やぼかしを使って、対象物を引き立てる方法、写真の明るさを変えたりなど色々な方法で撮ってみました。なかなか上手くは撮れません。

講師の先生や他の方の写真を見ると、こんな撮り方があるのかと、感心すると同時に自分の写真を見て、ため息ばかり。上達の道は険しそうです。

しかしながら、今後、イベントの写真を撮るときは、習ったことを活かしつつ、こんなことがあったよという写真で、会員やろう者の皆さんにお知らせしたいと思っています。頑張ります。

福岡県 柳川手話の会 堤 絵理子

★普段から風景写真を細々と撮り続けてはいますが、昨今は神社巡りにはまっており、高齢者となった今では、カメラが重いと感じながらも、お社(やしろ)や鳥居、御神木等からパワーをもらっています。

さて、セミナー当日は、基本的な講義を受けた後は実践と言うことで、屋外で各自撮影会を行いました。皆さんと一緒にワイワイ言いながらの撮影会はとても楽しかったです。

最後は私の写真をスクリーンで見ってもらうことになってお恥ずかしい限りです。できれば他の皆さんの写真も見たいと思いました。手話の会では広報担当ですので、この経験を今後にかけて

いきたいと思います。

役員の皆さんも、企画から準備・当日まで大変だったと思いますが、とても楽しい一日を過ごすことができました。また次の機会がありましたら是非参加させていただきたいと思いました。ありがとうございました。

最後になりますが、やっぱり、写真っていいもんですねっ。

福岡県 志免町手話の会 横田 博文

九手連研修会

鹿児島県

鹿児島に各県の皆様をお迎えしての開催。会場の確保・ホテルや昼食のご案内・地図作り等の準備をしていた私たちに、リモート開催への変更の知らせが。理事一同思考停止。こんなアナログな私たち、何度も実行委員会・リハーサルを重ねました。リモートに長けた実行委員を中心に何とか字幕と講師等を映し出すことができたものの、大きさや配置などが思うようにいかず苦戦しました。たくさんの方々のご協力を頂き、なんとか開催の運びとなりました。この場をお借りして、ご迷惑をおかけしたことのお詫びと、お礼を申し上げます。講師の富永悟子様を初め、九手連理事の皆様、ご協力いただいたすべての皆様と研修にご参加くださった会員の皆様、本当にありがとうございました。たくさんの方々の反省と皆様からのご意見をいただいて、今後活かして参ります。

《本会場（鹿児島市）・鹿屋会場・奄美会場から参加者の声を集めました》

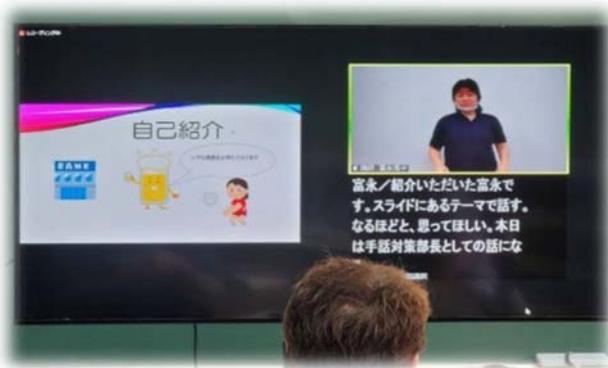
☆3年振りの開催、それも鹿児島が当番。遠くの会場まで行くことなくリモートで参加出来る！便利な世の中になりました。まだまだ改善する事ありますが…。同じ手話を勉強している仲間が九州に沢山いる事も分かりました。それぞれで、いろいろな取り組みしていて、良いなと思う事が沢山ありました。



☆これからの勉強の参考になりました。もっと勉強して福祉課、社協等の機関と連携をとりながら聾啞の方々と繋がって行けたら良いなと思いました。オンラインでの開催は近くの会場で受けられたので、志布志市からも気軽に参加でき良かったです。



☆熊本の条例制定後の取り組みや、諫早市の手話施策推進委員会を作ったことなど、凄く印象に残りました。大分県の指差しコミュニケーションポータルは鹿児島にもあったら良いな～と思います。欲しいです。大分県の動画作成も良かったです。後から見ようと思います。



奄美会場は電子黒板のお陰で映像がきれい↑↑

☆オンライン・サテライト集合形式という会に初めて参加し、通信技術活用に驚くばかりでした。要約筆記者の速さと、連携も見事でした。手話言語条例が制定される前と後、そこで終わりではなく継続するための会など、役所とろう協、ろう者とサークルとの連携がとても大事である事を学びました。長崎県での全中学1年生対象「手話講座」や大分県での指さしコミュニケーションボードはとても興味深く便利な方法だと感じました。

☆国連障害者権利条約をはじめとした大きな流れの中で、手話言語法の制定が求められた。法の整備によって、ろう者をとりまく状況が少しずつ改善された。今後、サークルの活動だけでなく、社会や行政に働きかける活動が大切であるなど、沢山のことを学びました。

☆オンラインでの開催のお陰で、海を隔てた遠い奄美からも参加することができ、大変感謝しています。

鹿児島県 手話サークルてて 緑川 晴美

第30回九手連研修会 午前の部に参加しました

長崎県



講師が配信するサテライト会場に入ると通信機器の調整や通訳者の席の調整などあわただしく行われていました。

また、ろう者の方がお一人参加されていて座る場所などを確認されていました。時間になり富永悟子氏による「手話言語法制定における これまでとこれから」をテーマに自己紹介のあと講演が始まりました。

順番は前後しますが印象に残っている話としては、富永氏が電車での移動中電車が動かなかったり、来なかったりした時があり場内のアナウンスが聴こえないため、何が起こったのかわからない。文字などで知らせる案内などが出来れば良いが、聴覚障害者にはまだまだバリアがある。と言うお話でした。

職場での意思疎通、災害時のアナウンス、改めて気づかされたエレベーターの非常通報ボタン等、聴覚障害者にとっては命にかかわる大事な問題がまだまだたくさんあるように感じられました。

またウェブサイトでは手話言語対応が少ない、問い合わせは電話番号だけだったり、テレビでは深夜放送やリアルタイムには字幕がなく情報が十分得られないのが現状のようです。特にコロナ禍の今、マスクを着用しているので口元が見えないため、会話の内容がわからないなど情報が伝わり難い状況のようです。

2021年7月から電話リレーサービスが開始されていますが、地域により使用内容に違いがあるようです。その他についても情報の整備が必要だと思いました。

手話言語法への法整備として、手話言語条例、現在454の自治体で成立しています。



手話でGO!パンフレット作成、障害のある人の情報アクセスや意思疎通環境を整える「障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法案」が衆議院本会議で5月19日に可決、成立しています。

講演に参加をして、聴覚障害者に対する情報やコミュニケーションを保障するために、手話言語法の制定が必要不可欠だと思いました。

長崎県 佐世保手話サークル親ゆび小ゆび 野田 満也

県手連交流会

7月10日開催の県手連交流会は、今年も新型コロナウイルス感染状況を考慮してweb交流会となりました。

長崎県手連は、県内16サークルが南部ブロック・北部ブロック・中部ブロックに分かれていて、この交流会は毎年ブロック持ち回りで担当し、今年は中部ブロックが担当しました。



4月頃から中部ブロック(8サークル)で、zoomや対面での話し合いを持ち、今年も昨年同様映像を各サークルに作成してもらい、オンライン形式交流会にしようということになりました。

各サークルに、地域の有名人紹介・地域の見どころ紹介・方言クイズ・地域の美味しいもの紹介などで3分以内の映像作成をお願いするチラシを配布したのが5月でした。

当日は、各サークルがサテライト会場に、担当の中部ブロック理事と県手連役員9名が本会場の長崎県聴覚障害者情報センターに集まりました。

例年だと宿泊会場(対面)で各サークルが趣向を凝らした出し物などで交流を持つので、本会場の司会や通訳者も楽しい雰囲気を画面越しでもサテライト会場へ伝えたいとの気持ちから、理事が司会者用の『たすき』や各ブロック紹介用のちよっと言葉を面白くしたプラカードなどを手作りしてくれ、とても好評でした。



サークルからの映像の様子

各サークルの映像は、地域の観光地紹介や方言紹介・手話サークル音頭・サークル活動の様子等があり、どのサークルの映像も『笑える映像』『おどろきの映像』で、各サテライト会場は笑い声でいっぱいになったと聞いています。紹介映像の中に、5月に開所した『手話ハウス結』の紹介(外観)もありました。

パソコン操作が得意ではなく、皆さんのお力もお借りしての交流会でしたが、コロナ禍の中、対面で会うことのできない県内の手話サークル会員の皆さんとw

ebで繋がり、笑い合える交流会ができ安堵しました。

長崎県 島原手話サークル(中部ブロック) 久松 美登子

九手連研修会に参加して

佐賀県

手話サークルかんざきからは10代から70代まで7名で参加させていただきました。
午前中だけの参加でしたが、富永氏のご自身の経験をわかりやすく、明るく講演され、仕事を始められた26年前は今と違ってもっとご苦労されたのだろう・・・と感じました。

今後も情報保障、コミュニケーションの大切さ、周囲とのバリアをなくし、災害を含む様々な場面で、地域で活動する私たちが声を上げていく必要があると切に思いました。

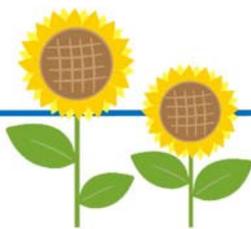
神崎市はまだ手話言語条例が制定されていないので、サークルでも地域のろう者とともに制定に向けての活動に協力していけたらと思います。

コロナ禍の折に研修会を開催してくださった役員の方、スタッフの皆さんに感謝です。ありがとうございました。

*スクリーンの講演者の映像が少し小さかったので、富永さんの表情がはっきり見えるくらい大きく映されてもよかったのかなと思いました。



佐賀県 手話サークルかんざき Y・M



九手連研修会に参加して

熊本県

「手話言語法の制定を目指して ～これまでとこれから～」と題しての講演では、2006 年国連障がい者権利条約が採択され、2011 年障がい者基本法の改正により手話の言語性が認められ、運動が進んでいる事を分かりやすく話されました。

聴覚障がい者にはどんな困りごとがあるのか？情報のバリア・コミュニケーションのバリア・ウェブサイトなど一つ一つの困りごとを富永氏の経験も交えながら聞きました(見ました?)。インターネットでの買い物は「いいなーと思っても内容が分からない」。聞こえる私たちには、すぐに情報を得ることが出来るのに、、、再認識させられました。

地道な運動の中で富永氏は、「私たちの権利を求めていく事によって大きく変わった。情報に関するバリアも広げて行きたい。この運動は永遠に続く。ゆずり葉のように先輩から引き続き、次へ引き続いていかなければならない。サークルの皆さんも知識を深めて頂き、ろう者と共に活動して頂きたい。一緒に頑張っていきたい。」と言われたことが深く心に残りました。

午後は参加出来ませんでしたが、なかなか慣れないオンライン研修も併せて、改めて学習を続けて行きたいと思いました。

熊本県 宇城わかぎ 後藤 典子

令和 4 年度 熊本県手話サークル「わかぎ」定期総会・交流会

熊本県手話サークル「わかぎ」の令和 4 年度定期総会と交流会が、6 月 12 日(日)に熊本聴覚障害者総合福祉センターで開催されました。今回の総会も新型コロナウイルス感染防止に配慮して、聴障センターと各地域のサテライト会場や個人宅をインターネット(ZOOM)で結んだ形で行いました。

「定期総会・ミニ交流会（企画から本番まで）」

「菊池わかぎが担当の時のホテルはどうする?」「会場は?」と、何年も前から相談をしていましたが、コロナ禍の影響で去年の宇城かわかぎの交流会が中止になり、またコロナの影響で理事会は会場と各会場をリモートで繋いでハイブリッド式で密を避けてきました。そして、各サークルはまん延防止措置で会場が使えず、会えない日々が続いたので、菊池わかぎ担当の定期総会と交流会は、どこか広い会場で密を避けながら集いおしゃべりをしたいと思ったが、条件が合わず叶いませんでした。「会場とサブ会場を繋いで近況報告をしたらどうか?」との意見が理事会で出ました。しかし、担当の菊池わかぎで果たしてリモートを駆使することができるのか?と不安になり、菊池わかぎの例会に県わかぎ副会長、事務局長に参加して頂き、会員と共に相談に乗ってもらいました。

その後、理事会時に私が「リモートで行うのであれば各サークルの特色を出しては?」と提案しましたが、各サークルからは「何をしたらいいのか?」「経験がない」などの意見がでました。それでも私はサークルに戻り「菊池わかぎは何か取り組みをしたい。」と提案してみると、経験者の先輩方が色々熱心に考えて下さり、また若いサークル員が分かりやすいように過去の冊子を持参して説明をしてくれて先輩たちを中心に一致団結できました。

そして、次の理事会では他のサークルからも「こんな企画を考えている。」との提案があり正直言って驚きましたが、「リモート交流会は難しい。」との意見も出ました。「ミニ交流会の前に各サークルを繋ぐところから始めては?」との話もありましたが「まずはやってみてはどうか?」との意見になりミニ交流会を開催することになりました。

当日は、事務局長が ZOOM の接続からほぼ全て担当して下さったので乗り切ることができました。菊池わかぎが総会の通訳、議長、交流会の司会、通訳等を担当し、会場の隣に菊池わかぎのサテライト会場を設けたことで、「マイクの消毒をしたほうがいい」などの細かいアドバイスがありました。

各地域、懐かしい写真や、工夫した企画などそれぞれのサークルの特色が出ており良かったです。また、交流会が楽しかったとの意見が寄せられて安心しました。反省点はありましたが、みなさんのおかげでなんとか無事に終わることができました。ありがとうございました。

熊本県 菊池わかぎ M・M

「令和 4 年度 定期総会・第 1 回理事会」

大分県

5月29日に大分県手連の令和 4 年度定期総会と第 1 回理事会が行われました。

コロナ感染者数が少し落ち着いてきた頃にかかれた久しぶりの対面での会議でした。

大分県では令和 3 年 3 月に手話言語条例が施行されましたが、その後の各地での活動として、市報へのワンポイント手話の掲載やコンビニ用指差しコミュニケーションボードなどが紹介されました。



九手連研修会参加者の感想

「大分県は2箇所のサテライト会場から29名が参加しました。
午前中は富永さんによる講演で、手話言語法制定に向けての動きや課題等知ることができました。
午後からは手話言語条例が制定された後の各県の状況を聞く中で、制定して終わりではなく、ここからがスタートとして活動していくことの重要性を感じました。」

大分県 はぐるま夜の部 寺司 知仁



編集後記

まだまだ暑い日が続いていますが皆様お変わりありませんか？
今回は第30回九手連研修会の感想を中心にご紹介しました。発行にあたり、ご協力いただいた皆さま、本当にありがとうございました。よろしければ、九手連ホームページ「掲示板」へ皆さまのご意見、ご感想をお寄せください。



九州手話サークル連絡協議会
発行責任者 池尻 和吉
事務局長 小濱 規男
広報担当 熊本県 橋本 健一